

AG PRESS

大学だより

AICHI GAKUIN UNIVERSITY

Oct. 2018 [vol.208]

[特集]

大学と社会を つなぐ学生たち

海外研修レポート

シュエカツの現場から

インターンシップ体験記

東日本大震災

ボランティア活動報告

1号館のアーチ窓 (楠元キャンパス)

国指定登録有形文化財でもある楠元キャンパスの1号館・法人本部棟にて、タイル貼の外壁を覆う蔦の葉をレトロなアーチ窓からのぞむ風景。秋の深まりとともに葉が色づき、学舎は重厚でアカデミックな空気を色濃くします。



学校法人愛知学院 名誉学院長 小出忠孝が逝去いたしました。

愛知学院名誉学院長 小出忠孝が、かねて病氣療養中のところ、肺炎のため平成30年6月22日（金）享年87歳にて逝去いたしました。ここに生前のご厚誼を深く感謝いたしますとともに、9月13日に執り行われました「お別れの会」の様子をご報告させていただきます。

「略歴」

1931	1月	愛知県一宮市にて小出有三初代学院長の長男として出生
1948	3月	第八高等学校を卒業
1949	4月	名古屋大学医学部入学
1955	3月	名古屋大学医学部卒業
1956	4月	名古屋第二赤十字病院にてインターン
1963	3月	名古屋大学にて医学博士の学位を取得
1964	4月	名古屋大学医学部第三内科入局
1968	6月	学校法人愛知学院理事に就任
1972	4月	愛知学院大学歯学部内科科学講座助教授に就任
1980	10月	愛知学院大学歯学部内科科学講座教授に昇任
1988	7月	愛知学院大学副学長に就任
1988	6月	愛知学院大学副学長に就任
2017	1月	学校法人愛知学院学長・愛知学院短期大学学長に就任
2018	12月	学校法人愛知学院理事に就任
2018	4月	学校法人愛知学院
2018	6月	名譽学院長称号を授与
2018	6月	遷化



社会における主たる活動

文部科学省関係

- ・歯学教育改善会議委員
- ・教育職員養成審議会委員
- ・学校法人運営調査委員
- ・大学設置・学校法人審議会委員
- ・大学審議会委員
- ・21世紀医学・医療懇談会議委員
- ・大学入学者選抜方法改善会議議長
- ・生涯学習審議会特別委員
- ・私立大学研究高度化推進委員会委員
- ・政策評価有識者会議委員
- ・私立大学研究高度化推進委員会委員長
- ・大学入試センター運営審議会委員
- ・新たな社会的ニーズ対応学生支援GP実施委員会委員長

厚生労働省関係

- ・医療関係者審議会委員
- ・医道審議会委員

大学団体関係

- ・愛知県私学経営者協会副会長・理事（顧問）・幹事

- ・日本私立歯科大学協会会長・理事・監事
- ・日本私立短期大学協会常任理事・理事
- ・歯科医療振興財団理事長・理事・評議員
- ・日本私立大学協会副会長・中部支部長・常務理事
- ・大学基準協会副会長・理事・評議員
- ・愛知県私学協会理事・評議員
- ・中部私立短期大学協会・愛知県私立短期大学協会副会長
- ・日本私立短期大学基準協合理事
- ・愛知県私学振興事業団監事
- ・日本私立大学団体連合会代議員・委員会委員
- ・日本私立大学退職金財団理事・評議員
- ・日本私立学校振興・共済事業団理事
- ・大学改革支援・学位授与機構評議員会副会長・委員会委員
- ・日本高等教育評価機構理事・評議員委員会委員
- ・日本私立薬科大学協会理事
- ・愛知学長懇話会代表幹事
- ・IDE大学協会東海支部理事

曹洞宗関係

- ・曹洞宗宗務庁教学審議会委員

スポーツ団体関係

- ・東海学生サッカー連盟会長
- ・愛知県サッカー協会副会長
- ・東海大学バレーボール連盟会長
- ・愛知大学野球連盟名誉会長・会長

その他 団体

- ・名古屋大学出版会理事
- ・中部日本放送番組審議会委員
- ・第2760地区ロータリー財団奨学金委員会委員長
- ・東海ラジオ・東海テレビ（株）放送番組審議会委員長・委員
- ・国際ロータリー名古屋クラブ会長・会員
- ・（財）大幸財団理事・評議員
- ・愛知教育大学運営諮問会議委員（議長）
- ・在名古屋ラオス人民民主共和国名誉総領事
- ・クラブ東海
- ・（財）シキシマ学術・文化振興財団理事

森田奨学育英会

- ・六羊会

表彰

- ・国際交流推進功労者表彰（愛知県）
- ・藍綬褒章受章
- ・教育功労者表彰（愛知県）
- ・産業教育功労者表彰（産業教育振興中央会）
- ・短期大学教育50周年記念表彰（文部大臣）
- ・日本私立大学協会役員永年表彰
- ・大学基準協会永年役員表彰
- ・歯科医療研修振興財団20周年記念功績者表彰（財団理事長）
- ・日本私立大学協会設立30周年記念功績者表彰（協会会長）
- ・旭日重光章受章
- ・正四位叙位

「お別れの会」が 執り行われました。



9月13日(木)、名古屋観光ホテル那古の間において、学校法人愛知学院小出忠孝名誉学院長のお別れの会がしめやかに執り行われました。500名ほどの来賓者がご参加くださった第一部では、学校法人愛知学院を代表し、発起人山本健善理事長が式



辞を述べたのち、お別れのことばとして日本私立大学協会森田嘉一副会長(京都外国語大学理事長・総長)、友人代表(六羊会)須田寛氏(東海旅客鉄道株式会社相談役)より、在りし日の故人を偲ぶ鄭重なる弔辞を頂戴いたしました。終わりに、愛知学院大学佐藤悦成学長、遺族代表小出龍郎短期大学部教授より謝辞が述べられ、献花の儀が営まれました。また第二部では、弔問に訪れた一般の方々及び本学教職員など700名が献花を捧げるとともに哀悼の意を表しました。紙面を借りまして、弔意を賜りました全ての皆様に厚く御礼申し上げます。

小出名誉学院長を贈る言葉「お別れの会」式辞より

本日ここに、愛知学院名誉学院長小出忠孝先生のお別れの会を行うにあたり、愛知学院全ての教職員並びに15000名の学生生徒を代表し謹んで先生のご霊前に感謝の誠を捧げ、式辞を申し上げます。はじめにご遺族の皆様にご心よりお悔やみを申し上げます。また、本日ご会葬の皆様には、ご多用中にもかかわらず多数ご参列いただきましたことに、厚く御礼申し上げます。先生は昭和38年6月に、愛知学院の理事に就任され、以来お亡くなりになられるまで55年の長きに亘り、愛知学院のためにお力を尽くされました。この間、中部地区では初めて設立されました歯学部において、昭和43年から内科学講座の教授として教鞭を執られ学生達に寄り添った指導をなされました。一方法人運営においては、昭和47年に愛知学院学監、さらには昭和63年からは愛知学院大学学長、愛知学院大学短期大学部学長、歯科技工・歯科衛生専門学校校長、愛知学院長をお勤めになられ、愛知学院すべてにわたる運営に精励されました。近年では、少子化による18歳人口減少が社会



学院に尽くした
55年間の精励に
敬意を表して。

愛知学院理事長
山本健善

問題化する中、時代を先取りして名城公園キャンパスの開設を鋭意決断されました。この一大事業の結果、本学の志願者数は飛躍的に伸びたのであります。また私学全体の振興においても、その手腕を発揮され、私立学校教育のリーダーとして文部科学省大学審議会委員、私立大学協会副会長など各種団体の役員を多年にわたりお務めになるなど、多大な貢献をなされました。小出先生の温厚篤実で忍耐強い性格と勤勉なお人柄は、愛知学院はもちろんのこと、私学教育界においてもかけがえない存在感を示されておられました。このことは、先生が平成4年に藍綬褒章、平成19年には旭日重光章、そしてこの度、正四位が授与されましたことがまさにその証であります。先生が愛知学院の発展のみならず、日本の私学振興のため、生命を賭されましたことに、ここに改めて満腔の敬意を表する次第であります。おわりにその優しく、また厚き道念あふれるご尊顔を前に、愛知学院関係者一同小出先生を鑑とし本学院のため、なお一層努力精進する覚悟をお誓いし、心よりご冥福をお祈り申し上げます。謹んで式辞いたします。

大学と社会をつなぐ学生たち

アイガクPR大使、始動。

愛知学院大学では、大学の魅力を社会に広く発信する新たな取り組みを始めました。その役割を担うのは、本学で実際に学ぶ学生たち。学生ならではの視点と行動力を発揮し、アイガクのPRに励んでいます。

PR大使とは？

各学科を代表する37人の学生たちを広報スタッフに任命。学内外での活動、特設サイト、SNSなどを通じキャンパスと学部学科の魅力を発信します。



NEWS! /

任命式で、
37名のPR大使が
正式に誕生！

5月12日(土)、PR大使の任命式が名城公園キャンパスで開催され、学生たちに任命状と記念品が授与されました。式後のスタッフ講習会では「広報とは何か？」をテーマにした講演や、効果的なPR活動についてのディスカッションが行われ、PR大使一人ひとりが決意を新たにしました。



ACTIVITY

-PR大使のおもな活動-

学生だから伝えられる、
大学の本当の魅力。

こんな活動
しています



リアルなキャンパス
ライフ情報を発信

大学の学びやキャンパスの様子を紹介する情報発信サイト「P.R.A.G」やインスタグラムを駆使し、独自の視点を発揮した情報提供でリアルなキャンパスライフを伝えます。



イベントなどでの
広報活動

オープンキャンパスや愛学祭など学内イベントに積極的に働きかけ、高校生に向けて大学と学部学科の魅力をアピールします。また今後は、学外にも活動の場を広げていく予定です。



広報活動
勉強会

愛知学院大学と学科を代表するPR大使としての心得や、「P.R.A.G」の記事更新の仕方、アイガクファン獲得につながる記事の書き方などを学び、効果的な情報発信につなげています。

REPORT

広報活動レポート

in オープンキャンパス

8/3[金], 4[土]

PR大使の最初の大きな仕事が、オープンキャンパスでの広報活動。来場した高校生・保護者の皆さんに学科の特色を紹介したり、模擬授業の様子をSNSに随時投稿したりして活躍しました。

高校生に自分の学科の良さを伝えて
いるうちに私も学科の魅力を再発見し、改めてこの学科に入って良かった
と実感しました。



文学部
グローバル英語学科 3年
友澤 亜美



日進キャンパス

<文学部・心身科学部・総合政策学部>

多様な学科を擁する日進キャンパスでは、模擬授業もバラエティ豊か。PR大使たちは積極的に授業に潜入し、高校生たちと交流しながらその様子をSNSでリアルに伝えました。



スタンプ
押しますよ!

壇上での学部説明では緊張しましたが、商学部の魅力を伝えられたと思うし、いい経験になりました。高校生に「商学部に決めました! 来てよかった」と言ってもらえて嬉しかったです。



名城公園 キャンパス

<商学部・経営学部・経済学部・法学部>

都心の新たな学びの拠点・名城公園キャンパスでは施設見学やスタンプラリーが人気を集め、PR大使もガイド役として活躍。また、学内のカフェで高校生と交流するなど、PR活動に務めました。



商学部 商学科 3年
遠藤 美里



ありがとう
ございました!



楠元キャンパス

<薬学部・歯学部>

専門的な学びに関心の高い参加者が多い楠元キャンパスでは、模擬授業や実習体験、施設・設備の紹介などのイベントが充実。PR大使はその様子に密着し、詳しくレポートしました。



薬学部
医療薬学科 3年
清水 光貴

私が質問に
答えます!



“アイガク・リアル” 配信中!

“わたし目線”をキーワードに学内のさまざまなモノ、コトを取材・レポートするウェブサイト、フォトジェニックなトピックをリアルタイムで発信するInstagramをPR大使が運営しています。ぜひフォローして、彼らのフィルターを通した本学の魅力に触れてください。



instagram

account @pr_taishi_ag

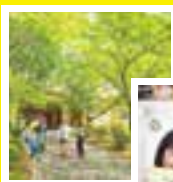
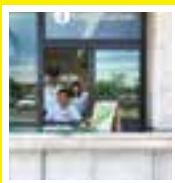


website

<http://opencampus.agu.ac.jp/prag/>

P.R.A.G

AICHI GARDEN PR SUPPORTERS MAGAZINE



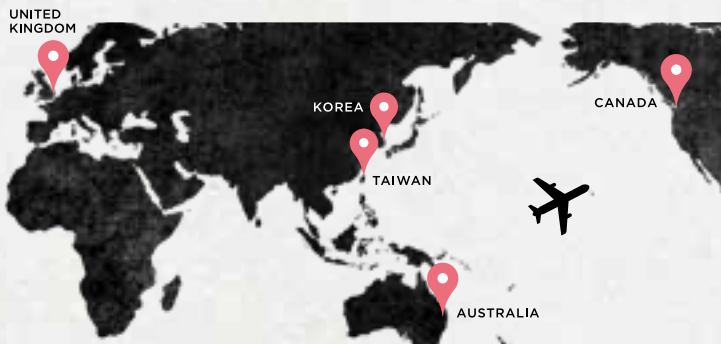
ACTIVE REPORT

SPECIAL
EDITION

2018 海外研修
レポート

この夏、海外で学びを深めた学生たちからの報告をご紹介します。

愛知学院大学では、真の国際人育成をめざし数々の国際交流活動に取り組んでいます。中でも人気なのが、夏休みに実施される海外語学研修とグローバル人材育成プログラム。学生たちの海外経験の第一歩を後押しし、知的好奇心を刺激し、自己成長につなげています。この夏、世界各地でさまざまな経験をした彼らの成長の軌跡をご覧ください。



REPORT

海外語学研修



AUSTRALIA

ボンド大学

商学部
商学科3年
大橋 史典



新たな環境に身を置いて成長すること、そして英語力の向上をめざして、海外研修への参加を決めました。オーストラリアを選択したのは、高校時代にオーストラリア人の友達ができ、その文化的背景やライフスタイルに興味を持ったことがきっかけです。実際、現地に行ってみると、道案内をしてくれたり、困っている時に声をかけて助けてくれるなど、親切でフレンドリーな人が多いという印象を持ちました。また、企業の終業時間や店舗の閉店時間が早く、人々は家族との時間をとても大切にしているようです。そんなところからも、人情味あふれる温かい国民性を垣間見ることができました。ボンド大学では、スピーキング中心のクラスで学びました。台湾、ブラジル、中国などさまざまな国の学生たちと英語で会話する機会が多く、授業後もクラスメイトと遊びに行くなど常に英語を使う環境にいたおかげで、英語力はかなり向上したと思います。今後も英語の勉強を継続し、さらなるスキルアップをめざします。また、今回の研修を通し、挑戦する姿勢や自ら積極的に行動を起こすことの大切さを知ることができました。この経験は、今後の人生においても大きな力になると思っています。

MY FAVORITE



Pizza

ボンド大学から徒歩3分ほどの距離にあるピザのお店に何度も足を運びました。マルゲリータは絶品！フレンドリーなイタリア人オーナーとのコミュニケーションも楽しかったです。

So good!

Friend

オーストラリアの学生はもちろん、台湾、ブラジル、中国など各国からの留学生とも仲良くなり、自分の世界が広がりました。



Skyscraper

オーストラリアで一番高いQ1展望台 (Skyscraper) からの景色。その美しさに言葉は失うほどでした！

REPORT

海外語学研修



UNITED KINGDOM

カンタベリー・クライスト・チャーチ大学

商学部
商学科3年
新井 拓実



グローバル化により、これからの社会では英語力がより求められると思います。TOEICなどで高いスコアを得ることはもちろん、会話力や海外での生活経験も重要になるはず。そう考え、イギリスでの語学研修に参加しました。まだ渡航経験のないヨーロッパを自分の目で見てみたかったというのも大きな動機のひとつです。現地の大学には、日本以外の国から来た学生が多数在籍していて、英語を学ぶにはとてもいい環境でした。私が受講した研修プログラムは、「IELTSコース」。イギリスの大学に留学するために学ぶハイレベルな学生たちの中で、緊張感を持って授業にのぞみました。キャンパスはとても広くのびのびとした環境で、短い期間でも充実した学生生活を送ることができました。おかげで英語力、特にリスニングとスピーキングの力が向上し、英語に対する抵抗感がなくなりました。もうひとつ身についたのが対応力です。先生と話すのも、友達を作るのも、食事をするのも、すべてが初めての環境での新しい経験。今まで当たり前だったことが当たり前でなくなった環境で全力を尽くした23日間は、今後の自分の人としての成長につながると確信しています。

MY FAVORITE



Friend

現地で受講したクラスには、コロンビア、中国、台湾、アルジェリアの学生がいました。異なる背景を持つ彼らと話すのはとても楽しく有意義な時間を過ごしました。

White Cliff

カンタベリーからバスで40分ほどの街・ドーバーにある白亜の崖。この絶景を見るために、山道を1時間半ほどひたすら歩きました。



Fish and Chips

おすすめのグルメは、もちろんフィッシュ・アンド・チップス。ハイストリートを歩けばすぐにお店が見つかり、イギリス人にどれほど愛されているかを感じることができました。

Yummy!





CANADA

ビクトリア大学

文学部
グローバル英語学科3年
不破 あゆみ



今回の語学研修の目的は、リベンジ。昨年、学科の語学研修でオーストラリアに行った際、ホストファミリーともしっかり打ち解けたいのに思うように英語で話せないもどかしさを体感しました。その悔しさを糧に英語の勉強に打ち込み、海外でもう一度チャレンジしたいと思ったのです。現地のプログラムは、英語のプレゼンテーションや会話を重視した授業と、ゲームや街並散策などクラスのコミュニケーションを深めるアクティビティで構成されていました。サポートしてくれたビクトリア大学のOB・OGの方々はとても優しく、年齢が近いこともあり、親しみやすかったです。現地には、バスの中や駅などで知らない人同士がちよとした会話を交わす「スモルトーク」という文化があります。街並も美しく、とても暮らしやすいビクトリアの街で学び生活するうちに、友達と二人だけでバンクーバーに一泊旅行に出かけるなど、積極的に行動する力が身につきました。また、英語学習へのモチベーションもさらに上がったと思います。今後は英語力にさらに磨きをかけ、身につけた積極性ととも就職活動に生かしていきたいです。

MY FAVORITE



Butchart Gardens

かつてのブリティッシュコロンビアの雰囲気が味わえるブッチャートガーデン。美しい花畑がたくさんあり、心癒されました。

So cute!



Campus

キャンパスは広くて自然がたくさん。ピクニックにはうってつけです。敷地内で鹿やウサギ、リスを見かけることも!



Host Mother

大好きなホストマザーと一緒に。本当に優しくて、毎日おいしいごはんを作ってくれました。1ヵ月という短い期間でしたが、たくさん話して打ち解けることができました。



TAIWAN

慈済科技大学

文学部
グローバル英語学科3年
矢野 真歩



台湾でのグローバル人材育成プログラムは、世界各国から集まる学生と共に寮生活を送りながら英語で交流し、ボランティア活動に取り組むなど、私が体験してみたいことが詰まった魅力的な研修でした。中国・韓国・フィリピン・日本の学生たちが参加し、現地の台湾やマレーシアの学生のサポートのもと、さまざまなプログラムにみんなで全力で取り組みました。特に印象深いのは、研修最後のショーにチームで取り組んだこと。仲間と意見を出し合いひとつのことを成し遂げる経験を通し、チームワークの難しさと素晴らしさを体感することができました。みんなと毎日を共にし、ショーの準備や練習に取り組んだことで、2週間という短い期間ながら国境を越えた厚い友情を育むことができたと思います。これまで中国語や中華圏の文化にそれほど高い関心を持っていませんでしたが、今ではもっと知りたい、学びたいと思うようになりました。この経験と意識の変化をもとに、今後は中国語と英語の両方を深く学んでいきたいです。そして、いずれは世界の架け橋となるような仕事に就きたい。そんな将来の目標がはっきりと見えてきました。

MY FAVORITE

AGU friend

愛学生同士、助け合いながら2週間のハードワークを乗り切ることができました。みんなと研修に参加できて本当に良かった。谢谢大家!



University



慈済科技大学は、医療看護系の大学。各国の学生たちと共に英語漬けの2週間を過ごし、高齢者施設やリサイクルステーションでのボランティア活動にも参加しました。

Team 5

大好きな“チーム5”。国を越えた友情、全員でやり遂げることの素晴らしさ、一生の思い出をくれました。そして、チーム対抗のコンテストでは見事優勝することができました。



KOREA

東国大学

文学部
日本文化学科3年
倉橋 怜奈



大学で日本文化を学ぶうち、他国の文化に興味が湧くようになった私。2年次まで学んでいた韓国語のスキルアップをめざすとともに、韓国の音楽・ファッション・食などの文化に触れてみたいと考え、研修に参加しました。現地の学校の授業は韓国語のみで展開されます。聞き取れなかったり理解できなかったりする時は何度も教えてくれるので、ほかの学生たちと助け合いながら前向きに学ぶことができました。また、私たちをサポートしてくれるBuddyと呼ばれる現地学生が、日本語を使ってとてもフレンドリーに接してくれました。彼らは日本にとっても高い関心を抱いているのです。現地にいる間、私は積極的に街に出て韓国の文化に触れるようにしました。街では現地の人たちが日本語で話しかけてくれ、ショッピングなどもまったく不自由なく楽しめました。韓国発のパフォーマンス「NANTA」を鑑賞し感動したのも、いい経験です。こうして、韓国の文化やライフスタイルを直接見聞きすることで、視野が広がって物事を柔軟にとらえることができるようになったと思います。今後は、現地で養った感性を生活の中で生かし、さらにほかの国の文化にも触れてみたいと考えています。

MY FAVORITE



Cruising

遊覧船のデッキの上から観た韓国の街並はとても美しかった! 船内では音楽の生演奏もあり、クルーズを楽しむことができました。



Buddy

研修中は他大学や現地の学生による5~6人のグループで行動します。Buddyと呼ばれる仲間たちとカフェや展覧会に出かけるなどして交流を楽しみ、交友関係が広がりました。

Cafe

韓国にはおしゃれなカフェが多く、カフェめぐりが楽しみのひとつでした。特に学校近くの明洞にはカフェがたくさんあるので、ぜひ行ってみてください!

Fashionable!





2018

キャンパス発、旬のトピックスをご紹介します。

OCT

男子バレーボール部が「西日本バレーボール大学男女選手権大会」で優勝

6月28日(木)～7月1日(日)に広島県で開催された「2018年度 第44回西日本大学バレーボール大学男女選手権大会」において、バレーボール部(男子)が優勝しました。本大会での優勝は創部以来初の快挙。個人では今富大貴さん(総合政策学部総合政策学科4年)が最優秀選手賞、赤星伸城さん(心身科学部健康科学科1年)がセッター賞、河野亜蘭さん(総合政策学部総合政策学科2年)がリベロ賞、植田和次監督が優勝監督賞を受賞しました。今後もバレーボール部の応援をよろしくお願いいたします。



TOPICS
01

TOPICS
02

第50回全日本歯科学学生総合体育大会で優勝



全国29の歯科大学が23種目のスポーツで競い合う「第50回全日本歯科学学生総合体育大会」の夏季大会で、本学歯学部が優勝を果たしました。これにより冬期大会と併せ総合優勝となり、大会三連覇を達成。参加した449名の選手一人ひとりの頑張りの結果です。8月10日(金)には、メルキュールホテル横須賀にて閉会式並びに表彰式が執り行われ、副評議員として大会運営を行った妹尾孝章さん(歯学科5年)が優勝旗を受け取りました。

TOPICS
04



9月10日(月)、アーティスティックスイミング日本代表の吉田萌選手が山本健善理事長を表敬訪問しました。本学所属(職員)の吉田選手は、ジャカルタにて開催されたアジア大会2018に出場し、デュエットとチームの2種目で銀メダルを獲得。「目標は金メダルだったので悔しいけど、みんなが喜んでくれる顔を見られて良かった。次の目標は、東京オリンピックに向けて日本の顔となる選手になることです!」と力強くコメントしました。今後も吉田選手へのご声援をお願いします。

アーティスティックスイミング日本代表の吉田萌選手が山本理事長を表敬訪問

8月3日(金)・4日(土)、例年にも増して暑い中、夏のオープンキャンパスを日進・楠元・名城公園の3キャンパスで開催。2日間あわせて8533名の受験生・保護者が来場し、大いに盛り上がりました。受験生は進学を希望する学部の模擬授業や体験実習、個別相談などを通じて各学部学科の学びと入試について知ることができた様子でした。次回の入試イベントは、12月8日(土)に名城公園キャンパスで開催される「入試対策講座」です。多くの受験生の参加をお待ちしています。



TOPICS
03

夏のオープンキャンパスを開催

シューカツの 現場から

VOL.14

MESSAGE FROM CAREER CENTER

SPECIAL



インターンシップ 体験記

学生が企業で一定期間、実務を経験するインターンシップ。近年、多くの企業が実施しており、学生の参加率も高まっています。志望する業界や企業研究にもつながるインターンシップは、実質的な就活スタートと言ってもいいでしょう。3年次の夏休みにさっそく貴重な経験をした学生たちのレポートが届きました。

REPORT 1

文学部 日本文学科 3年
久保田祐加

研修先：岐阜市教育委員会



司書課程を履修していて図書館の仕事に興味を持ったこと、また公務員の業務にも関心があったことから、市の図書館でのインターンシップに参加しました。5日間の研修期間中は、書架整理や読み聞かせの補助のほか、資料の修理、装備、展示づくりなどさまざまな業務を経験。職員の方が生き生きと働く姿に刺激を受けたほか、保健センターに出向く「絵本といっしょ事業」では、赤ちゃんが初めて本に触れる機会をつくるブックスタートの進め方を体験し、新たな発見ができました。この経験を悔いのない就職活動につなげたいと思います。

REPORT 2

商学部 商学科 3年
加藤泰稚

研修先：中央工機株式会社



商社を志望しており、業界研究、社会人基礎力の向上につながると考えインターンシップに参加しました。5日間の研修は、社内見学、顧客企業の製品ショールーム訪問、社員の方と参加学生の座談会など、充実した内容でした。グループワークも豊富で、他大学の学生たちと協働することで多様な価値観に触れ、多角的な視野を身につけられたと思います。インターンシップを通して企業の現場での実際の仕事を知り、さまざまな部署の社員の仕事に対する情熱を感じたことで、自分のやりたい仕事や将来像が明確になりました。

REPORT 3

経済学部 経済学科 3年
青木崇泰

研修先：田原市役所・株式会社りそな銀行



市役所と銀行のインターンシップに参加。それぞれの選考にあたっては、応募書類の作成をキャリアセンターの方に手厚くサポートしていただき、自己PRや志望動機を何度も修正して完成させました。市役所では職員の方の業務サポート、銀行では座学や取引先見学などを経験。それぞれの仕事内容を学んだのはもちろん、働く人たちの集中力、真剣度を目の当たりにして、社会人と学生の意識の違いを実感しました。また、銀行ではグループワークに取り組み、他の学生の考え方や就職活動の状況を知ったことが良い刺激になりました。

REPORT 4

法学部 現代社会法学科 3年
竹村隼令

研修先：SMBCE興証券株式会社

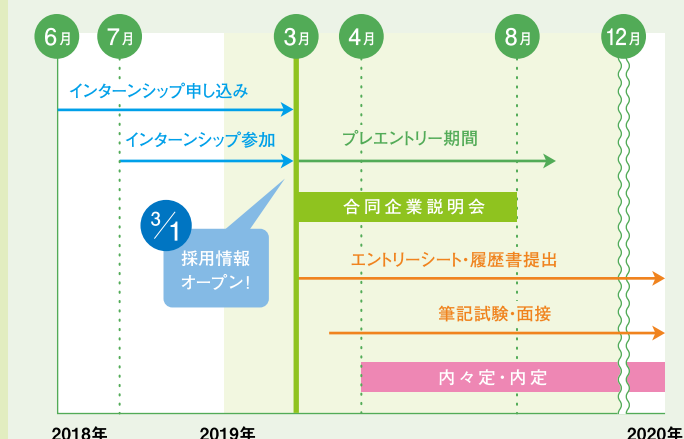


証券会社でのインターンシップを希望したのは、会社法のゼミで学びを進める中で企業に興味を持ったからです。株式や債券などの資金の融通を行う証券業務を体験したいと思い、バランスよく多くを学べる総合証券会社を選択しました。金融セミナー、職場見学などさまざまな研修プログラムの中で特に印象に残ったのは、最終日のグループ発表。惜しくも順位は2位でしたが、メンバーと協力し課題に取り組むことでチームワークの大切さを学びました。採用試験にグループワークを取り入れる企業もあるため、来年の就職活動に向けて良い経験ができたと思います。

就活スケジュールの決まり方

就 活のルールをこれまで決めてきたのは、各種メーカーや商社、銀行など約1,300社が所属している日本経済団体連合会（経団連）です。経団連が示すガイドラインが就活スケジュールになってきました。しかし、加盟していない企業や外資系企業ではこのルールよりも早くから選考を行っているのが現状です。年々、インターンシップを通して採用活動が早期化されている今、現在のスケジュールよりも早くに就職対策をとる必要が高まってきています。

2020年卒業生の一般的な就活スケジュール



就活準備期には、視野を広げることが重要です。インターンシップへの参加、業界・企業研究などを通し、自分の興味ある分野や職種について見極めるようにしましょう。3月からは就活がスタート。就活サイトでのプレエントリー、合同企業説明会など、企業と接触する機会が増えてきます。それまでにキャリアセンターのサポートを積極的に活用し、自己分析やエントリーシート作成、面接対策を行いましょう。そして6月頃には選考が本格化。試験や面接が連日続くハードな時期もあると思いますが、早い時期から計画的に動くことで、余裕ある就活ができるはずです。

今回のお題

「就職活動スケジュール」

2020年春卒業生（現3年生）の就活スケジュールは、3月説明会解禁、6月選考開始となっています。しかし、現2年生が卒業する2021年は同じスケジュールと言われていますが、形骸化がさらに進むことが予想されます。年々、企業の採用意欲が高くなっており、インターンシップを選考目的とする企業の割合も、より高まっています。社会の動向や就活の全体スケジュールをしっかり把握することが、就職対策には欠かせません。

特需の終焉と景気動向

現 在、日本ではオリンピック開催に向け多方面で経済活動が活発化し、景気も良い状況となっています。しかし、オリンピック終了後の景気動向は不確定なものといっても過言ではありません。人材不足の状況は続くと言われていますが、それを補うAI技術の進歩や企業内での人事政策も、今以上にシビアになることも想定されます。今の「売り手市場」がこのまま継続するかは不透明な状況ですから、現1・2年生はこうした社会情勢を考慮し、早い時期から社会に出る心構えを持つ必要があると思います。



キャリアサポート通信

インターンシップと採用試験

学生の間で、インターンシップ参加が就活の第一歩として浸透してきました。それに伴い実施企業も増えていますが、企業側の受入人数はどうしても少ないのが現状で、人気企業ほど狭き門となっています。ただ、インターンシップの受入人数は限られています。インターンシップで選考に漏れてしまったからと言って諦める必要はありません。インターンシップのエントリーと採用試験のエントリーは全く別物と考え、志望する企業の採用試験には積極的にエントリーしてください。

※キャリアセンターでは、障害をお持ちの学生の就職支援も行っています。お気軽にキャリアセンターまでお問い合わせください。

気軽にご参加ください!

今後の行事予定

10月

● 第3回就職ガイダンス

11月

● 3年生保護者向けの就職ガイダンス
● 筆記試験対策講座
● 自己分析・自己PRの仕方講座

12月

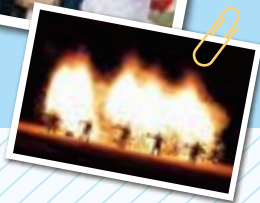
● 第4回就職ガイダンス
● 業界企業研究セミナー

（学内に大手優良企業の人事担当者を招きガイダンスを実施）

東日本大震災 ボランティア活動報告

東日本大震災直後から続いている被災地支援。
今年も多くが参加し、ボランティア活動や
現地の方々との交流に取り組みました。

2018年



岩手県 住田・大槌 コース

日程:平成30年8月6日(月)～8月9日(木)
場所:岩手県住田町、大槌町、陸前高田市
参加学生数:14名



住田町夕涼み会にて お祭りのお手伝い

住田町でお祭りのお手伝いを行いました。みんなで汗を流して準備した出し物を、たくさん子どもたちが楽しんできました。

大槌町仮設住宅にて活動中
大槌町の仮設住宅では、住民の皆さんと一緒に楽しめる活動をメンバー全員で企画。ミサンガ、万華鏡、スノードーム作りなどに楽しんで取り組んでくださって、嬉しかったです。



住田町にて閉村式

住田町では、民泊で町の自然や暮らしを直に感じる経験をさせていただきました。閉村式では、お世話になった方々との別れが寂しく住田町から離れたくないと思ったほどです。また会いに行きたい!



学生VOICE

法学部
法律学科 2年
市橋 剛志



昨年に続き二度目のボランティア活動。今回は「学ぶ気持ち」を強く持って行動し、現地の状況を自分の目で見て多くの人に伝えることを目的に参加しました。実際に訪れてみると、現地はこの1年で想像以上に復興が進んでいる部分がある一方、海沿いではまだ道路や巨大防波堤も建設途中だったり、仮設住宅で寂しい思いをしている人がいっしょなこともわかりました。今回、私はリーダーを務め、仲間をまとめながら活動に取り組んだことで、人に頼り任せることを学びました。また、現地では相手の立場で考える場面が多々あり、自分の心のフィルターを通して物事を捉える力が身についたと思います。

宮城県 南三陸 コース

日程:平成30年8月23日(木)～8月26日(日)
場所:宮城県南三陸町、石巻市
参加学生数:17名



ネギ収穫のお手伝い

農業体験では、ネギ収穫をお手伝い。地元の農家の方に教えていただきながら、東北の農業について学びました。

復興市で出店

「復興市」に出店。夜には復興支援で新城市から派遣されていた本学卒業生と共同で手筒花火を行いました。多くの人たちと関わることで、復興における交流の大切さを学びました。



民泊先のお母さんたちと 一緒に記念撮影

お世話になった地元の母さんたちと記念撮影。滞在中は、郷土料理をふるまっていたり、震災時の貴重なお話を伺ったり、地元の暮らしに触れることができました。



学生VOICE

総合政策学部
総合政策学科 3年
弓矢 絃司



海外に行った時、日本についての知識のなさを痛感したこともあり、地震で大きな被害を受けた東北のことを知りたいと考え参加しました。3日間の活動中は、南三陸の農業について学んだり、地元の方のお宅に泊めていただきお話を伺ったり、有意義な経験ができました。中でも「復興市」という町の催しに参加させていただき、準備から片づけまでを通して多くの方と関わったことが特に印象に残っています。そこで感じたのは、今の東北に必要なのは「人の交流」だということです。そして、自分のイメージだけで物事をとらえず現地に赴いて実態を知ることの大切さを知りました。